生態系に配慮した宿根草の庭づくり
～ ガウラ ～

職藝学院
教授　**渡 邉 美保子**

庭園に植栽された外来種が逸出し、その後、新しい環境に根付いて繁殖を繰り返し生態系に影響をおよぼすかどうかを判断するには時間がかかります。同じ植物でも逃げ出した場所の環境によって生き残るものもあれば消えていくものもあります。庭園の外の環境が草原や森、河川、海岸などのように自然度が高い所の場合は、植栽する宿根草の生態に気を配りましょう。例えば、こぼれダネの発芽率が高い宿根草については、熟した種子をいつまでも付けておかないことをおすすめします。

ガウラは北アメリカ原産のアカバナ科の宿根草で、草丈 100 ～ 150cmほどになります。5 月中旬から 11 月初旬頃まで次から次と花茎の先端に花が咲きます（写真 1）。ガウラは花茎を伸ばしながら、先端につぼみをいくつか付けて、その下に常に 1 ～ 2 つほどの花を咲かせます。花は 3 日ほどでしおれてゆき、しおれた花が落ちると緑色の果実が現れます（写真 2）。この果実が茎にびっしりと付いて下から順に褐色になりタネが花壇に落ちてゆきます。最後のつぼみが咲き終わるのが 11 月初旬頃ですから、半年ほどはタネを落とし続けます。原産地では明るい林内、草原、道ばたなどに生えています。このような場所が近くにある場合は、庭園の外に逃げ出す可能性が高いと考えられます（写真 3）。

熟したガウラのタネを花壇に落とさないために、開花茎の切り戻しを定期的に行います。5 月中旬頃から開花が始まりますが、6 月初旬に地面から 20cmの所で切り戻しをします（写真 4）。3 ～ 4 週間後には再び花が咲き始めます（写真 5）。9 月初旬までは切り戻しができますが、2 回目以降は、伸びた花茎だけを切り戻します。2 ～ 3 週間後には再び開花します。

※ガウラの詳しい説明は、『花と緑の銀行だより 181 号』（2011.9 月号）参照
（花と緑の銀行ホームページの技術情報『富山で楽しむ宿根草』シリーズ 3No.15 にも掲載）

写真 1　開花後一度も切り戻しをしていないガウラ。9 月中旬。高さ 130cm。広がり 120cm。花茎にたくさんの果実が付いている。花茎の先端につぼみ、その下に花が咲く。

写真 2　ガウラの花茎に並んだ果実。7 月初旬。果実は熟すと褐色になり、中にタネがある。

写真 3　花壇から 15m ほど離れた生け垣の下で芽生えた実生。12 月初旬。見つけたら抜く。

写真 4　咲き始めた花茎を地面から 20cm残して切り戻し。6 月初旬。

写真 5　6 月初旬に 1 回目の切り戻しをして 4 週間後の様子。7 月初旬。